

夏 むくもも



本格的な夏が到来します。
熱中症に気をつけて、こまめな
水分補給をお忘れなく。
健やかに夏をすごしましょう。

その二百四十二 戦後の庶民生活と 婦人生活誌(2)

芦屋歴史紀行

ふるさと再発見



▷刊行された『美しい部屋の手帖』

NHK朝の連続テレビ小説「とと姉ちゃん」のモデルにもなっている大橋鎮子と花森安治は、昭和23(1948)年、新たな雑誌づくりに着手します。新雑誌では、「毎日の暮らしに役立つ、暮らしが明るく、楽しくなるものを、ていねいに」をモットーに、衣食住に随筆などを加えて内容をさらに充実させました。こうして新雑誌『美しい暮らしの手帖』を刊行しました。この名は後に『暮らしの手帖』と改まります。

料理・食べ物の変化
戦後の混乱期がひと段落すると、雑誌や新聞に「食」に関する記事が登場するようになります。7号からは、みそ汁、ハンバーグ、ホットケーキなどの作り方が紹介され



△写真で説明：チキンライスの作り方

ました。みそ汁の作り方は、みその選び方から、ダシの取り方、みその入れ方、溶かし方、煮立て方のコツまでが写真で説明されています。このような調理紹介記事は、当時はほかの婦人雑誌では見られない手法でした。また、調理の指導は料理学校の先生ではなく、第一線で活躍する著名な料理人に依頼して行いました。当時は一般的ではなかった西洋料理の作り方をいち早く取り上げ、普通の家庭でも手に入る材料でコロッケやオムレット・チキンライスなど数かずのレシピを紹介しました。

住まいの変化

終戦直後、大都市の住宅は大半が戦火で焼失し、人びとはバラックや改良された防空壕などに住む環境から再出発しました。

昭和23年になっても約370万人が住む家のない状態でした。しかし、同じ年の6月には東京高輪に戦後初の鉄筋コンクリートアパートが完成するなど、日本の住宅事情は着実に変わりつつありました。ゼロからの復興のなか、戦後の住宅の洋風化が急速にすすみ、「床に座る生活」から「腰かける生活」に移行していきました。

『暮らしの手帖』でも独立した別冊『美しい部屋の手帖』が昭和25(1950)年に刊行されました。また、住まいや生活に関する特集が何度も組まれ、特に台所の研究には力が注がれました。

その後、高度経済成長とともにゆとりある生活を求め、家電製品や消費財が登場すると、人びとの暮らしはさらに大きく様変わりしていきました。

(文・芦屋歴史の里)

編集後記

▼芦屋に生まれ育ったのに、海で泳げない私。子どものころに年の離れた従姉たちと海に泳ぎに行つた際、私が溺れてバタバタしているのに、従姉は私が楽しくはしゃいでいると思つたらしく、そのまま放置された経験がトラウマになっているのかも。もうすぐ海やプールの季節。一人で泳いでいる人を見かけたら、まわりの人も気にかけてあげてくださいね。そして7月10日は参議院議員選挙。今回から18歳以上の投票がスタートします。仕事や勉強などでお忙しいとは思いますが、投票にも行きましょう。(福田)
▼「用水路にかわいいカルガモの親子がいますよ。複数の子ガモがモコモコと親ガモに寄り添っています」と想像するだけでほほえましい情報を大城区の人からいただきました。さっそく現場に行きましたが残念ながらその親子には会えませんでした。また別の人からは「芦屋中学校の近くにかささぎの巣があります」とも。巣は見つけましたが、かささぎにも会えず終い。田んぼにいる足の長い鳥と、空をぐるぐる飛び回る大きな鳥には何度も会っていますが。新情報があれば広報までお願いします。(鍛守)

この広報は、再生紙を使用しています。